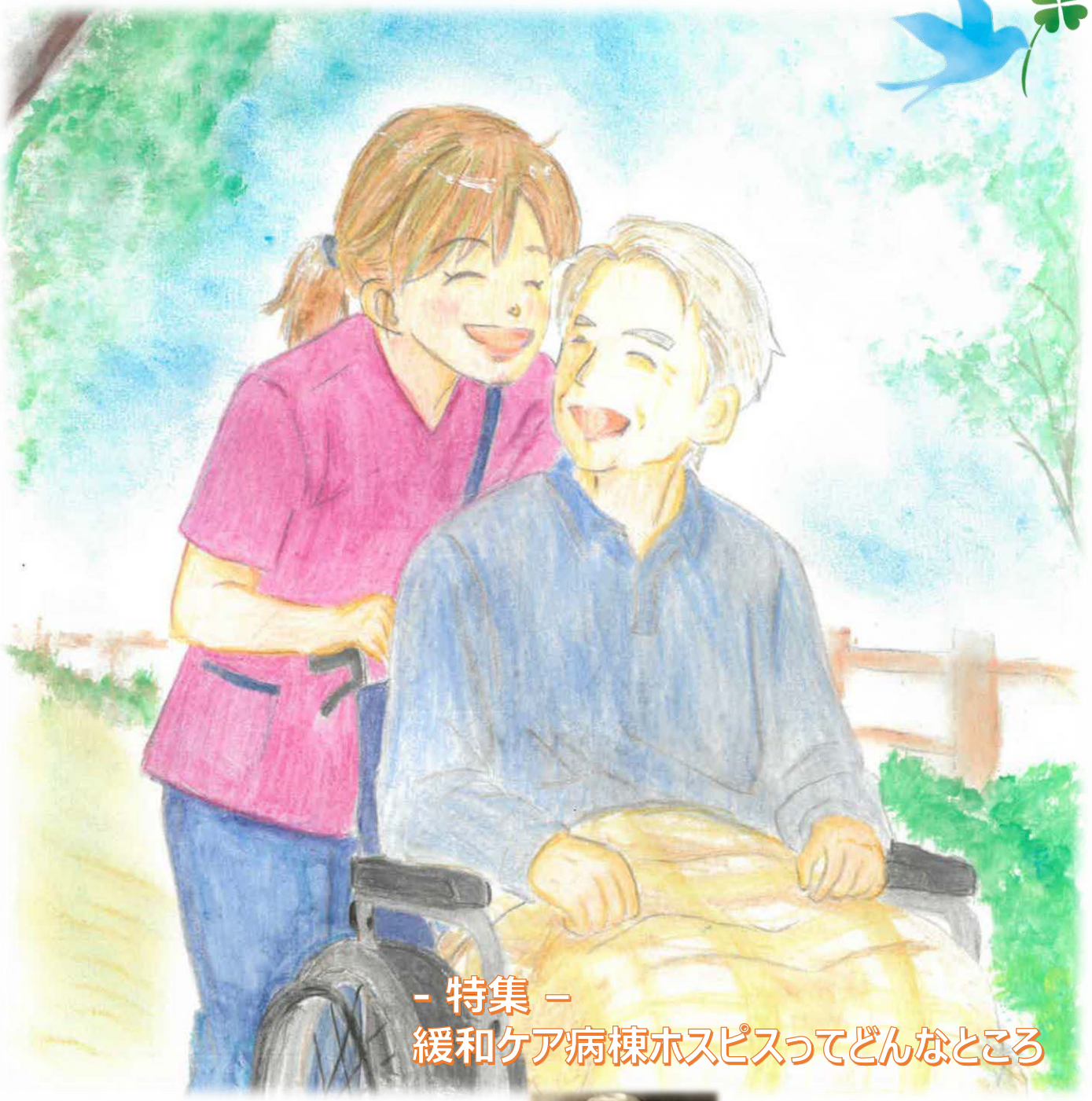
Voies ヴォーリズだより



－ 特集 －
緩和ケア病棟ホスピスってどんなところ

巻頭言

「難病診断の実際」

公益財団法人 近江兄弟社
ヴォーリズ記念病院
副院長　前田 憲吾



Vol.183
2026年11月発行

基本理念

キリスト教の「隣人愛」と「奉仕」の業を、医療を通して実践します。

－私たちは、基本理念を大切にします。－

「難病診断の実際」



副院長　前田 憲吾

世間で言う難病とは、厚生労働省の指定する疾患だけでなく、なかなか診断できない病気・治らない病気というものまで含まれるかもしれません。遺伝性のものも少なくありません。

今年はこんなことがありました。二十数年前に発症した方がこれまで診断がついていませんでしたが、文献を検索し洗い直してみると、酷似した一つの疾患が見つかりました。その論文の著者にメールを送り、同じ方法で検査できないかと問い合わせたところ、可能であることがわかり、患者さんの血液検体をその施設へ送りました。そこで検査をしていただいたところ、まさしくその病気であることが判明しました。しかも、その疾患は世界でも非常に稀少で、本邦では2例目になるようです。この患者さんが発症した時代にはわかっていなかった病気でした。

さらに、別の患者さんでは、三十年以上前におよその診断はついていたものの、当時の医療水準では原因となる遺伝子・蛋白が検査できませんでした。たまたま私がこの患者さんを担当することになり、事情を伺ったところ、難病申請もできていないとのことでした。医学が進歩すると、難病申請のレベルも上がり、中途半端な診断では申請ができません。そこで、三十数年前の検査歴を聞き出し、その時に採取された検体が今でも残されているか調べてもらうことになりました。A大学病院への直接的な問い合わせではカルテ番号がないため受診もされていないだろうというそっけない返事でした。そこで、検査を担当されていたであろう部署へ直接問い合わせたところ、何とその検体が凍結組織として保存されていることがわかりました。病院への受診はないが、検体のみが担当部署へ送られていたということです。早速、その凍結組織を用いて、現在の診断手法を用いて調べ直してもらっています。

難病の診断には、時として遺伝子診断まで行う必要があります。私が研修医だった頃にはわかっていなかった病気が遺伝子までわかるような時代になっています。しかし、その多くはまだ治療には結びついていません。そのような状況の下で遺伝子まで調べる必要があるのかという意見は時々耳にします。それでも、遺伝子診断で原因がわかって、ひとまずは病気の本体が見えてほっとされることもあります。診断がついていない状態というのは、患者さんにとっても私たち医師にとっても宙ぶらりんで、これから先、どうなるのか見えない状態です。脊髄性筋萎縮症という疾患は、すでに遺伝子を標的とした治療が可能となりました。他の多くの遺伝性疾患もそのうちにこのような治療方法が見出されることでしょう。それは患者さん自身には間に合わなくても、子どもさんの世代には現実化するかもしれません。そうなった時に、いち早く治療を受けられるようにすることが遺伝子診断の一つの役割ではないかと思います。

過去に検査しても答えが出なかった難病の方々へ、もう一度検査を考えられてはいかがでしょうか？

チャプレンだより㊺　「信愛望」

チャプレン　中村信雄

8月末から10月中旬までヴォーリズさんの書を4点、チャペルで展示いたしました。大切な所蔵品の展示をご提案いただいた方に感謝いたします。「御意（みこころ）のままに」、「信愛望」、「神隣我」、「信働愛」。これらの書を見ていて感じたのは、言葉を選ばれたヴォーリズさんの祈りが込められているということです。

文語訳聖書のテサロニケ人への前の書5章8節に、次のような言葉があります。「信仰と愛との胸當を著け、救の望の兜をかむりて愼むべし。」（信仰と愛の胸当てを着け、救いの希望の兜をかぶり、身を慎んでいましょう。【新共同訳】）

胸当ても兜も、いのちを守るために必要なものです。パウロは私たちに勧めているのです。苦難の只中に共にいてくださる神を信じ、キリストが十字架で示された私たちへの愛を受け取り、どんなときも望を持って慎んで生きることを。

1929年1月、ヴォーリズさんは「信愛望」と書に残されました。私たちは、苦難の只中にあるとき、このパウロの言葉とヴォーリズさんの祈りを思い出したいと思います。









「地域看護科の紹介」

師長　中野　さつき

当外来では、診療補助、処置室業務、健診、内視鏡検査、緩和ケア外来、褥瘡・慢性創傷外来、抗がん剤治療、手術、中央材料室など、多岐にわたる業務を担っています。患者様が診察から検査・治療へとスムーズに進めるよう支援するとともに、生活指導や医療処置を通じて自宅での療養を支えるなど、幅広い看護の専門性を発揮しています。

看護師12名、看護事務クラーク2名、看護助手1名が在籍し、平均年齢49歳と幅広い年齢層のスタッフが互いに支え合い、スタッフ間のチーム力を高めています。朝のスピーチでは、患者様との関わりで感じたことや嬉しかった出来事、休日の過ごし方などを共有し、最近では朝のストレッチ体操も取り入れ、心身の健康維持に努めています。

外来患者数は1日約75名、退院後訪問は年間40件、在宅療養指導は年間120件にのぼります。外来から入院、そして在宅へと切れ目なくつなぐ看護を大切にしており、退院後は看護師が自宅を訪問し、不安や困りごとを確認しながら在宅サービスとの連携を図っています。また、地域に出向き、住民の健康維持や終末期ケアについて共に考える出前講座も実施しています。患者様・ご家族の思いに寄り添い、ケアマネージャーや訪問看護との連携を強化することで、継続看護に力を入れている点が当科の強みです。

これからも、最期までその人らしい暮らしと療養生活が続けられるよう、職員一同取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。







特集

緩和ケア病棟 ホスピスってどんなところ



ここに来れば もう終わりという場所ではなく ここからはじめようという場所です









医師
細井　順

私たちのホスピスは２００６年に誕生し、多くの方々の祈りと支えにより今日に至りましたことに心から感謝を申し上げます。
「働き盛りのがん死」が社会問題となり、全世界にホスピス運動が起こり、日本に導入されてからも半世紀が経ちました。医学の進歩とともに、ホスピスも少しずつ変化しています。現代は長寿社会を迎えましたが、やたらいろいろな病名が付け加わり、そして、人生の最終盤にがんというダメ出しに見舞われ、死を望んでホスピスを訪れる病者が増えています。生老病死に対して、誠実に向き合う人にこそ安楽な死が待つことは、人類の歴史、哲学、宗教が示すところです。
生きるよろこびはいのちが響きあうことです。これからもこれだけは忘れずに、この地に根ざして、よろこびのある人生のゴールをみつめていきたいと考えています。
これからも、何卒よろしくお願い申し上げます。

ひとりでは死ねない　細井 医師 著書

ホスピスで過ごす病者さんたちと語り合ったことをまとめました。そこにあるのは、豊かな人生と納得した死です。気ぜわしく心もとない現代社会にも、その人らしい人生の手ごたえが垣間見えます。







ホスピス長　**奥野 貴史**

２０１４年の秋から勤務しています。最初は緩和ケアとホスピスケアの違いが分かりませんでした。でもこの12年間、細井先生をはじめ多くの先生から、その違いを教えてもらいました。では、その違いとは・・・滋賀県下にある当院以外の緩和ケア病棟と違って、私たちは緩和ケア病棟（ホスピス）と銘打っています。それは当院の「キリスト教の隣人愛と奉仕の業を、医療を通して実践する」という理念と関わりがあります。中世ヨーロッパで聖地に向かうキリスト教巡礼者が病に倒れた時、ケアをし、癒やし、時には看とったのがキリスト教の修道院であり、それがホスピスの原点と言われています。
ホスピスには医療スタッフだけではなく、病院牧師（チャプレン）、ボランティアさん、そしてご家族のみなさんが関わってくれています。からだ、こころ、たましいをもてなす場所、そんなホスピスであり続けようと思っています。





ここからはじまる 緩和ケアの窓口

緩和ケア外来

曜日	Dr
火	細井
木	細井
金	奥野

予約制　午前診察（9:30～12:00）
緩和ケア認定看護師が対応します

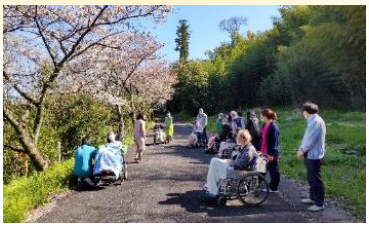
ホスピス病棟へご入院は
かかりつけの病院の医師を
通してのご紹介が必要です。
緩和ケア外来へ
ぜひご相談ください。



お問い合わせは
0570―01―5211（代表）　**9:00～17:00**

「エーデルワイス」
「ふくじゅ草」…
花木の名前がつけられた16のお部屋。
窓の外は水郷を臨む湿原が広がり、
鳥の唄が年中響き渡ります。
東向きに大きな窓があり、まぶしい朝日が
今日も真っ先に一日のはじまりを
伝えてくれます。
チャプレンやボランティアさんが植えた草花が
揺れるなか、隣人であるタヌキが時々
ひょっこり顔をみせてくれます。
フレンドドッグのペリー君が
温かく寄り添ってくれます。
ボランティアさんの生演奏に心が躍り、
名物のかき氷は今日も舌の上でとろけます。







大切にしたいのは　いつでも　何気ない日常のひととき





そうした入院生活の中でふと思う、
今まで何気なく過ごしてきた一日、
楽しかった出来事、こんなことに悩んだな、
こんなことに困ったな、これからどうしよう…など
ご本人とご家族の悩みや希望をお聞きしながら、
多職種一丸となって支え援助しています。
ひとつとして同じでない、唯一無二の人々の
物語を迎え見守ってきました。
今年で当院の緩和ケア病棟（ホスピス）は、
おかげさまで開設２０周年を迎えることができました。
これまで私たちと共に過ごしてくださったことに
心より感謝申し上げます。
これからも「いのちをつなぐケア」を大切に
皆様とのご縁を心に刻みながら歩んでまいります。

つながる・ひろがる　次の一歩をはじめる

こもれびの会

年２回
開催



5月16日 大切なご家族を亡くされた方対象の
「こもれびの会」を開催しました。
たくさんのご遺族様がご参加され、
大切な方との思い出や嬉しかった事、辛かった事、
今どんな思いでおられるのかなど語って頂きました。
ホスピスを通じて連なる人と人との「縁」は
温かく、そして明日への力になります。



参加してみて…

- 元気をいただきました
- 話は尽きません
- 素敵な時間でした
- 同じ思いの人がいることにホッとしました
- 自分の思いを話すことができました



グリーンホテルYes　近江八幡にて

緩和ケア病棟で働いて思うこと



緩和ケア病棟 看護師主任
小磯　早紀

緩和ケア病棟では、
全人的な苦痛緩和に加え、
患者さん一人ひとりの人生観や歩まれてきた歴史を大切にし、人として向き合うことを大切にされている場所であると感じています。また、私たち看護師も患者さんとの関わりを通して、自分自身の看護観と向き合う機会をいただいていると感じます。先日、初めて追悼会に参加しました。ご家族と医療者が故人を偲び、温かな雰囲気の中で思い出を語り合う姿が印象的でした。緩和ケア病棟は「病気を卒業する場所」と教えて頂きました。これからも、患者さんが穏やかに過ごせる環境作りを目指していきたいです。

ライラックの会

第４水曜
または
第５水曜

大切な方を亡くされた方へ

当ホスピスで大切な方を亡くされたご遺族とスタッフが思い出や近況を語り合うことで共に悲しみを分かちあい、生きていくための励みや支えになれば…という思いで毎月開催している集い「ライラックの会」。ご家族と一緒に故人を偲び、連なる絆を大切にしていきます。ゆっくりスタッフとお話ししてみませんか？お気軽にお電話にてご予約ください。

ご遺族様：2名様まで　13:00～16:00の間で1時間程度

0570－01－5211（代表）　**9:00～17:00**

大腿骨頚部骨折について

リハビリテーション科　西野　智至

大腿骨頚部骨折は、太ももの骨の付け根（股関節側）で起こる骨折で、痛みにより立つことや歩くことができなくなります。骨粗鬆症があったり、転倒を繰り返していると起こりやすい骨折です。

治療としては手術と術後のリハビリテーションが基本となりますが、残念ながら骨折前と同じにはなりません。骨折を契機に介護が必要な状態となりやすく、骨折自体が直接命に関わるものではありませんが、様々な合併症が起こりやすいため、結果として骨折後の5年間で2人に1人は命を落とすとされる恐ろしい骨折です。

予防が何よりも重要であり、まず意識するのは食事と運動です。日本人はカルシウムやビタミンDが不足していることが非常に多く、意識して積極的に摂取することが必要です。運動は骨を丈夫にし、転倒しにくい体づくりができるだけでなく、生活習慣病をはじめとする多くの分野で効果が認められています。無理のない範囲で継続して行うことが重要ですので、激しい運動よりは自身が続けやすい運動（ウォーキングなど）を習慣化するとよいでしょう。

加齢に伴い骨密度が低下し、気づかないうちに骨粗鬆症となり、未治療のまま骨折をしてしまう方が多くおられ、検査や治療を適切に受けられていないことが日本全体の問題となっています。まずは一度骨密度の検査を検討されてみてはいかがでしょうか。





管理栄養士ようちゃん
おススメ！



多職種でつくる夏祭り
～笑顔で溢れるひと時を皆さんと～

回復期リハビリテーション病棟・緩和ケア病棟で患者様やご家族様、職員が一緒になって楽しめる「夏祭り」をレクリエーションで開催しました。





緩和ケア病棟では「調理師」・「管理栄養士」・「管理栄養士の実習生」が共同で焼きそば・たこ焼を提供♪

入院生活の中でありながら、ご家族様と同じ食事や催し物を楽しめるようにという配慮が随所に企画されており、穏やかで優しい時間の流れを感じるホスピタリティに満ちた企画でした。

回復期リハビリテーション病棟のたこ焼とかき氷はトッピングがなんと選択制でした！！



自身で券を持っていく



トッピング・ソース・蜜を選ぶ



スタッフが盛り付けて
包装して提供

緩和ケア病棟とは対照的に金魚すくいや射的など活動的でまるで本当の夏祭りにきているような感覚でした。

患者様も童心に帰ったのか…
全てのトッピングをのせたり、思い思いのこだわりを患者同士で話したり、見せ合ったりと祭り特有の楽しい雰囲気が印象的でした。

どのレクリエーションも患者・スタッフ・家族が一様に笑顔でした。
企画者や対応頂いた職員の創意工夫と心遣いに感謝致します。

外来医師紹介

循環器内科

馬渕　尚子（まぶち　なおこ）



外来診察日
金曜日（予約制）
診察時間：9時～12時
（日祝、年末年始除く）

【卒業年】 1993年　滋賀医科大学
【資　格】 医学博士、日本医師会認定産業医

このたび、循環器内科外来を担当いたします。心不全研究で医学博士を取得し、当院では心不全の診療のほか、健診や慢性期の入院患者さんを担当してきました。この中で、命を守ることはもちろん、ご家族との時間やその人らしい生活を守ることの大切さを学びました。心不全や心筋梗塞、脳卒中などは、発症してから治療するだけでなく、日々の生活習慣や健康管理による予防が重要です。

一人一人の病状と生活に寄り添い、健康寿命を延ばし、その人らしい人生を支える医療を心がけ、地域医療に貢献してまいります。

眞弓 景子（まゆみ　けいこ）



外来診察日
水曜日（予約制）
診察時間：9時～12時
（日祝、年末年始除く）

【卒業年】 2005年　神戸大学医学部
【資　格】 医学博士、日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医
日本循環器学会専門医
日本緩和医療学会 緩和ケア講習会終了

今年度4月より、水曜日の循環器外来を担当しています。

胸の痛みや動悸・息切れ、健診での心電図や血圧異常などお困りの症状がありましたら、お気軽にご相談ください。

また近年増加している心不全について、地域の医療機関と連携して診療に取り組んでいきたいと思っております。

今日からできる感染予防：予防接種

感染管理認定看護師　岩本 綾子

冬は気温が下がり乾燥することで感染症が広がりやすい季節です。感染対策としては外出後や食事前の手洗い、こまめな換気と人が多い場所でのマスク着用があります。

そして、予防接種も重要な対策の一つです。「予防接種を受ければ絶対に感染しない」というわけではありませんが、持病のある方、妊娠中の方、受験や仕事などで大切な予定を控えている方は、早めに医師や自治体の案内を確認し、自分に合った接種時期を相談すると安心です。特に高齢の方は感染症に対する免疫の働きが少しずつ変化して、感染したときに重症化しやすくなることがあります。そのため、予防接種によって備えをしておくことは、健康な生活を続けるための大切な方法の一つです。かかりつけ医がいらっしゃる場合は接種についてご相談されることも良いでしょう。また、接種後に腕の痛み、腫れ、発熱、だるさなどがみられることがあります。多くは一時的ですが、気になる症状がある場合や、強い症状が続く場合は医療機関に早めに受診してください。

予防接種は、「自分自身を守る」だけでなく、家族や周囲の大切な人を守ることにもつながります。ご自身が出来る対策を取り入れて年末年始を元気に過ごしましょう。



◆季節性インフルエンザ・新型コロナワクチン予防接種　受付開始◆

＊予約制です＊

医事課（1階受付②番）又はお電話にて
受け付けます。詳細は、お問合せ下さい。



（窓口受付時間）9：00～16：00
（電話受付）　0748-32-5211
（電話受付時間）14：00～16：30

病院からのお知らせ

ヴォーリズ記念病院ホスピス
20周年記念講演会

会場 G-NETしが：滋賀県近江八幡市鷹飼町80-4
（近江八幡駅南口から徒歩10分）

令和8年
11/15（日）
開演13:30
（開場12:30）

第1部
- コンサート　ギター演奏：ザビエル大村氏
- 映像でふりかえる「ホスピス２０年間のあゆみ」
- 記念講演
  「いのち輝くホスピス　～２０年の感謝と我々の行く道～」
  演者：ヴォーリズ記念病院　細井 順医師
  「よくいきはじめ　～いのちを支える～」
  演者：佐々木 慈瞳師

第2部
- 対談「いのちをつなぐケア」
  登壇者：佐々木 慈瞳師
  細井 順医師

お問い合わせ
公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院
ホスピス開設20周年記念講演会 実行委員会
0748-36-5455
月曜日～土曜日　9：00～16：00（日祝除く）

- お申込方法 -
QRコードから
お申込みください

「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里　ボランティア募集」

老健入所棟
入浴後の身だしなみを整えるお手伝いをして頂けるボランティアを募集しております。
入所の方が気持ちよく一日を過ごせるように髪を乾かしたり、整えたり、お話相手をする活動です。

ナーシングホーム
お庭のお手入れや入居の方のお話相手をしてくださる方を募集しています。

ヴォーリズ医療・保健・福祉の里ボランティアの現在の主な活動

(1) 外来での案内、車椅子介助など
(2) ミシン作業
(3) ティーサービス
(4) お話し相手
(5) 園芸（花壇やプランターの整備　季節の花植え）
(6) ホスピス病棟活動
(7) 老健　通所リハビリ(デイケア)　介助、お話し相手


ボランティアブーケ

参加希望やご質問があれば、いつでもご連絡ください。
皆さまの温かいご協力をお待ちしています。

【お問い合わせ】ボランティア委員会：中野
電話：0570-01-5211（代表）※日・祝・年末年始を除く／13：00～17：00

〒523-0805　滋賀県近江八幡市円山町927-1
電話　：　0570-01-5211
FAX　：　0748-32-2152（代表）
＊シャトルバス（無料送迎）あります。

●編集後記●
朝夕の冷え込みが増してきました。気温が下がるこの季節は、感染症も広がりやすくなります。院内では基本的な対策を見直しながら、安心して過ごせる環境づくりを続けています。
どうぞあたたかくして、体調を大切にお過ごしください。

【編集・発行】　公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院　企画渉外課